

令和元年度第2回北海道森林管理局保護林管理委員会資料

狩場山周辺の保護林拡充について

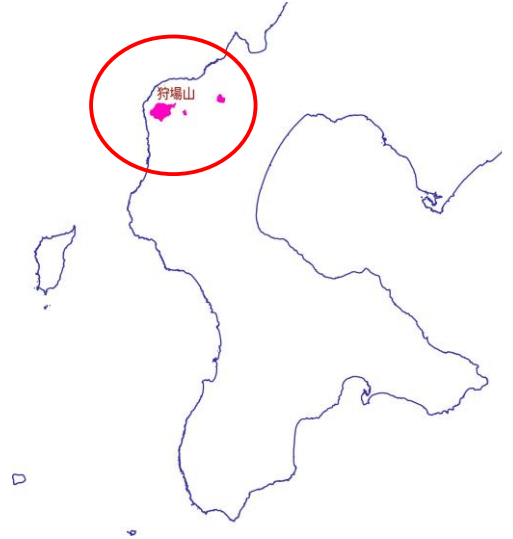
- 追加調査・解析の結果
- 今後の調査・検討について

北海道森林管理局

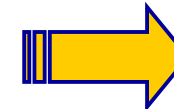
(受託者：株式会社さっぽろ自然調査館)

事業の目的と経緯について

- ◆ 狩場山地周辺はブナの北限地帯、まとまった形で原生的な天然林が分布
- ◆ 昨年度から森林生態系保護地域の拡充について検討
- ◆ 令和元年7～8月
広域データ収集とGISによる整理
現地調査と過去の調査データの整理
- ◆ 令和元年9月
現地検討会で意見聴取
- ◆ 令和元年10月
保護林管理委員会での報告と意見徴収
現地調査・分析の追加実施
- ◆ 令和2年1月
地元町村等のヒアリング



次年度以降の調査
内容の検討

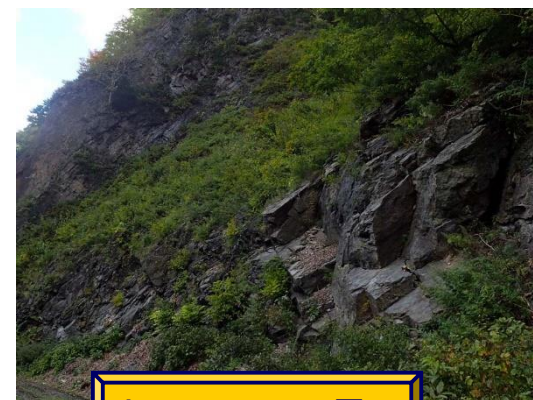


(次年度)
調査・分析の実施
保護林区域の検討

現地調査の追加実施(令和元年10月)について



- 現地検討会での意見を踏まえて、大平山周辺で追加調査を実施。
- 発達したブナ林がある箇所2か所、地質図で石灰岩等の露頭が期待される泊川等の3か所を選定して現地調査を実施。



大平川沿いの露頭

ブナ林の追加調査



- ◆ 大平山周辺の流域はアプローチが限られているため 泊川上流部の調査区⑪、大平川とヒヤミズ沢の分岐付近に調査区⑫を設定し、これまでと同じ調査をした。
- ◆ 多様性基礎調査では3か所
 (■128,130,166) 保護林調査では1か所
 (■217-2) でブナ林調査が実施されている。
- ◆ 文献では、「大平山自然環境保全地域調査(1986年度、環境庁)」において、渡辺定元らにより5か所の森林調査(●4-G,4-S,4-U,4-H,4-Y)が実施されている。
- ◆ 自然環境保全地域内では、実質的にほとんど調査がなされていない。

ブナ林の森林調査データ

現地調査

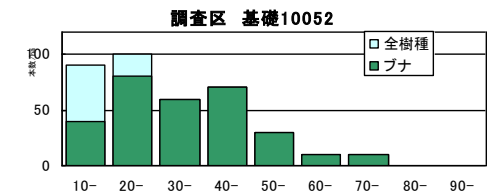
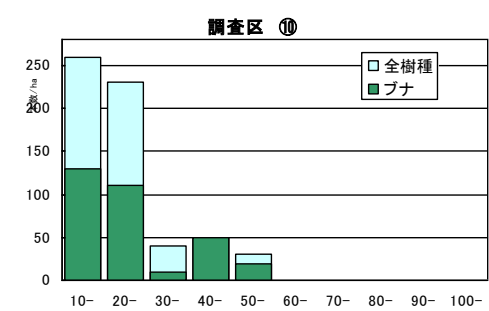
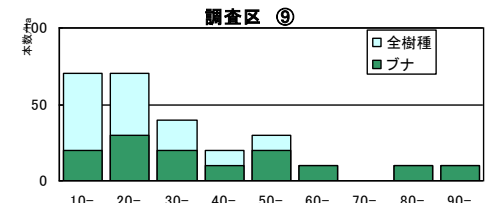
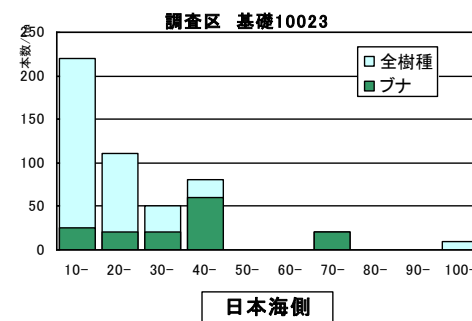
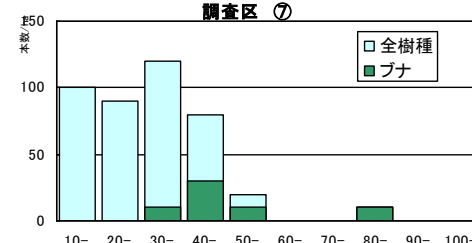
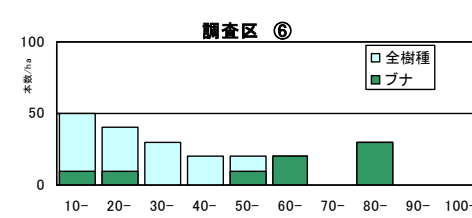
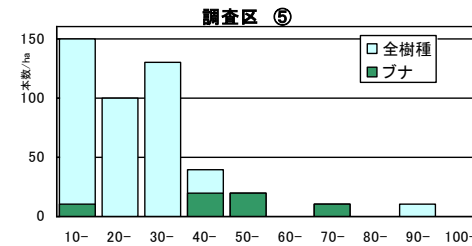
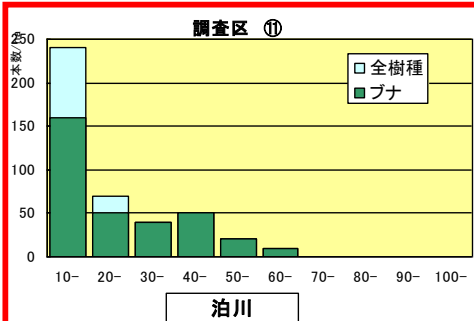
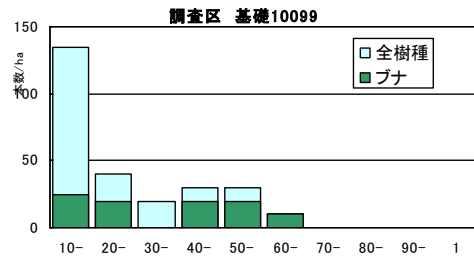
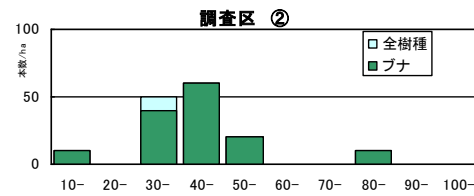
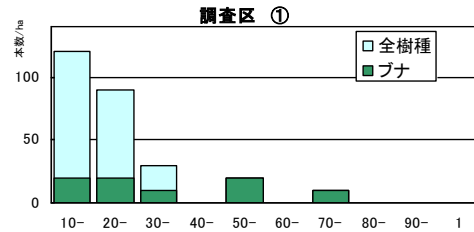
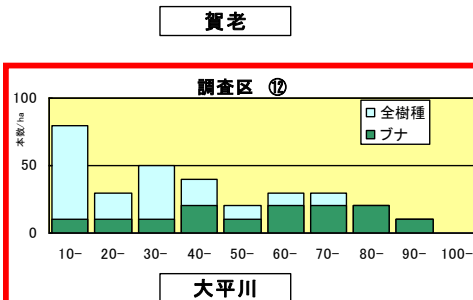
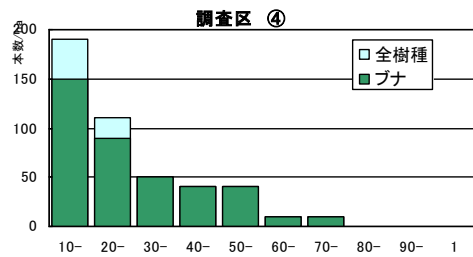
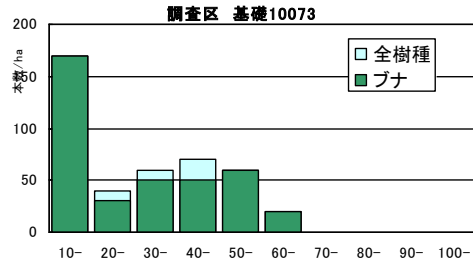
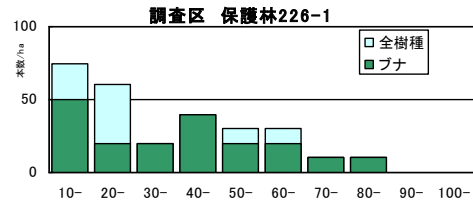
No	管理署	調査小班	全樹種 材積 m ³ /ha	全樹種 BA m ² /ha (a)	ブナBA m ² /ha (b)	ブナ比 率 b/a	ブナ最 大直径 cm	クマゲ ラ指標 m3/ha	クマゲ ラ食痕
1	後志	3309林班に2	182	21.3	11.6	54%	74	120	
2		3341林班い	240	24.8	23.1	93%	83	141	
3		3383林班い	394	38.8	31.0	80%	84	158	文献
4		3406林班と	339	38.6	36.3	94%	75	98	
5		3470林班と	411	44.2	13.4	30%	75	144	●
6		3496林班い	410	38.9	27.3	70%	86	164	●
7	渡島	5045林班い	371	41.2	13.2	32%	83	178	●
8		5074林班い	297	38.5	13.3	34%	52	127	●
9		5172林班と	366	36.0	26.6	74%	98	132	
10		5130林班は	308	38.0	24.0	63%	54	101	●
11	後志	3313林班に	243	30.5	27.2	89%	73	143	●
12		3141林班い	646	61.1	40.4	66%	93	141	

※BA=胸高直径断面積合計、材積は直径を用いた推定値



- ◆ 追加した2か所はブナが優占し大径木が生育する。
- ◆ 大平川の調査区⑫は特に大径木が多く、材積は調査区で最も高かった。
- ◆ 調査区⑪ではクマゲラの食痕を確認。

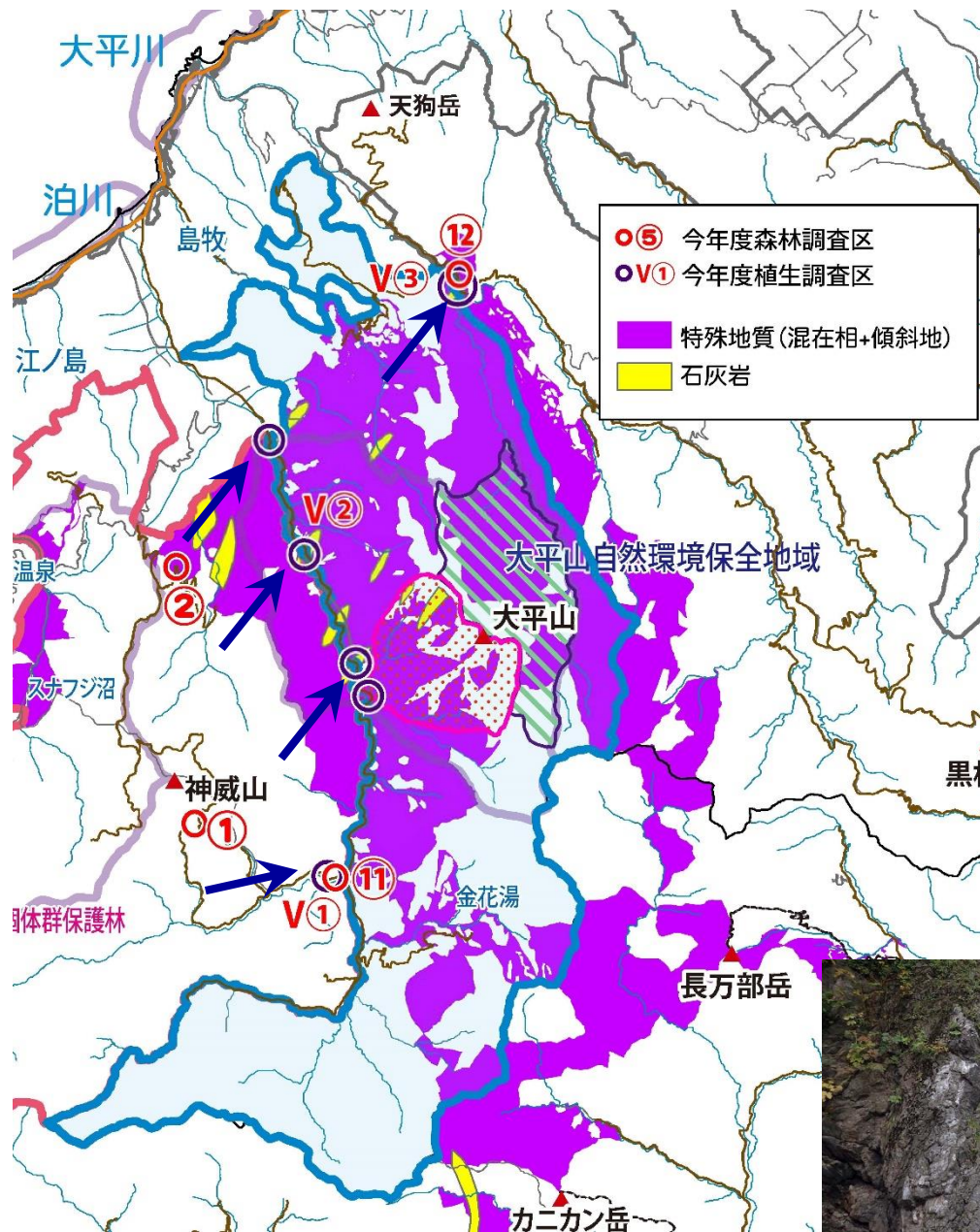
ブナ林の森林構造



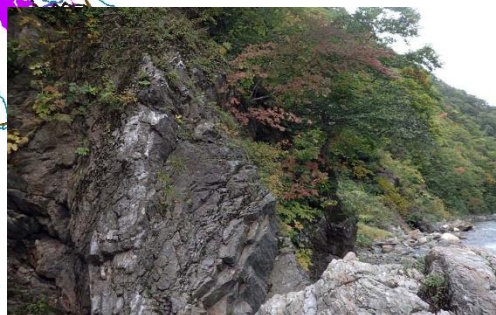
真駒内川

- ◆ 泊川の追加区⑪はL字型で賀老地区に近い。
- ◆ 大平川の追加区⑫は大径木が多く、真駒内川地区に近い。

特殊地質に生育する 植物の追加調査



- ◆ 大平山周辺の流域を追加対象とするため、この流域の石灰岩等の特殊な地質に生育する植物の生育について調査。
- ◆ 特殊地質、特に石灰岩が表層地質図で確認されている箇所から、**泊川上流部V①**、**泊川中流部の4か所V②**、**大平川とヒヤミズ沢の分岐付近V③**において露岩地の植物調査を実施した。
- ◆ 過去には、泊川で**種の保存法対象種**の調査（2018年）、登山道沿いでは**保護林・北海道の総合調査、自然環境保全地域の調査**が実施されている。



追加分析・クマタカの分布と評価

狩場山周辺の保護林拡充等に係る関連業務 クマタカ生息推定



- ◆ 森林を代表する猛禽類クマタカの生息について、日高山脈森林生態系保護地域での推定等に用いた手法で分析。
- ◆ クマゲラ同様に、材積・林種・地形条件から指標値を算出。
- ◆ 急傾斜地のある天然林で、須築川流域などの日本海側などでポテンシャルが分布している。



地元町村等のヒアリング調査の主な結果

島牧村

実施時期：令和2年1月； ヒアリング対象者：役場職員、旅館業者

□ 保護林の拡充について

- ◆ 現時点では、村の冬期間の地域振興策として取り組んでいるCATスキーのエリアとの調整が図られているところであり、保護林の拡充については、村の自然環境を保全していく上でも進めていただきたい。（役場）
- ◆ 島牧のブナをもっとアピールして利用していくということがあっていいように思う。（旅館業）
- ◆ 自然に関心のある層に向けて、ブナ林を軸に自然環境について考える方向付けがいいのだろうと思う。春先の雪のある時期なら林内も歩きやすく、ブナ林の観察会に適している。ただし、ヒグマへの懸念で進まない面がある。（旅館業）

□ 国有林の利用について

- ◆ 狩場山の利用者は、「賀老の滝」を含め、年間1,000人ぐらいと推計。（役場）
- ◆ 将来的には、サイクリング道を整備するために国有林の林道を使わせてほしいといったことがあるかもしれない。（役場）
- ◆ スナフジ沼は、以前は車で行けたが、今は林道ゲートから歩いて1時間半ぐらいで、ごく稀に問い合わせがあるぐらい。沼は珍しく、比較的行き易いので、利用を考えてもいいのではと思うが、どう利用していくかという課題はある。（旅館業）
- ◆ 泊川支流の小金井沢川沿いの高台にある金花湯（温泉）は、今は林道ゲートが閉まっているため、利用はごく稀（旅館業）。金花湯の利用は、村としては特に考えていない（役場）。

□ 災害防止について

- ◆ 河川は道の管理となっている。（役場）
- ◆ 海岸部の民家近くの国有林で、必要な場合には、森林管理署に治山工事をしてもらっている。（役場）
- ◆ 仮に流木が大量に出て民家に影響するような場合は、国有林に治山事業の要望を出すことになるだろう。（役場）

地元町村等のヒアリング調査の主な結果

せたな町

実施時期：令和2年1月； ヒアリング対象者：役場職員、自然愛好団体

□ 保護林の拡充について

- ◆ 従来通りの登山利用ができるのであれば、保護林の拡充に特に異論はない。（役場）
- ◆ 島牧村側の小田西川源流部に以前入ったことがあるが、手つかずの自然が残っており、イワナが高い密度で生息していた。（自然愛好団体）
- ◆ 須築川の砂防ダムはスリット化の工事がされたが、魚類の密度という点で、効果があるかどうかは不明。下流にはサケの遡上が見られる。（自然愛好団体）

□ 国有林の利用について

- ◆ 真駒内コース、茂津多コースの登山道を、町で維持管理している。（役場）
- ◆ 両コースとも利用者は少なく、それぞれ年間50名未満と思われる。（役場）
- ◆ カスベ岳は登山道がないが、町民から登山してみたいという要望がある。（役場）
- ◆ 島牧村側に通じる林道は、真駒内コース登山口より先で大規模な崩落が起きて通行できなくなっている。直すのは難しいだろう。（役場）

□ 災害の防止について

- ◆ 狩場山の南側地域については、特に山地防災に関する要望はない。（役場）
- ◆ 海岸部の民家の裏にある国有林は、防災対策をしてもらっている。長い年月をかけて、一通りは終わっているところ。（役場）
- ◆ 大雨等で町道や河川に支障が出るような場合は、要望して、治山工事をしてもらうことがある。（役場）
- ◆ 治山ダムによってダム下流側で河床低下が起きている箇所は多い。（自然愛好団体）

第1回委員会(10/15)での委員からの意見と対応方針

- 対象範囲の東側が狭いのではないか。天狗岳付近や大平山周辺にあるブナを含む林分の蓄積の高い箇所や、石灰岩露頭の予想される長万部岳やカニカン岳なども検討範囲に入れるべきではないか。
- 大平山の保護林は、大平山自然環境保全地域を含めて指定されるのが自然ではなかったか。

⇒来年度の調査・分析範囲とすることを検討する。

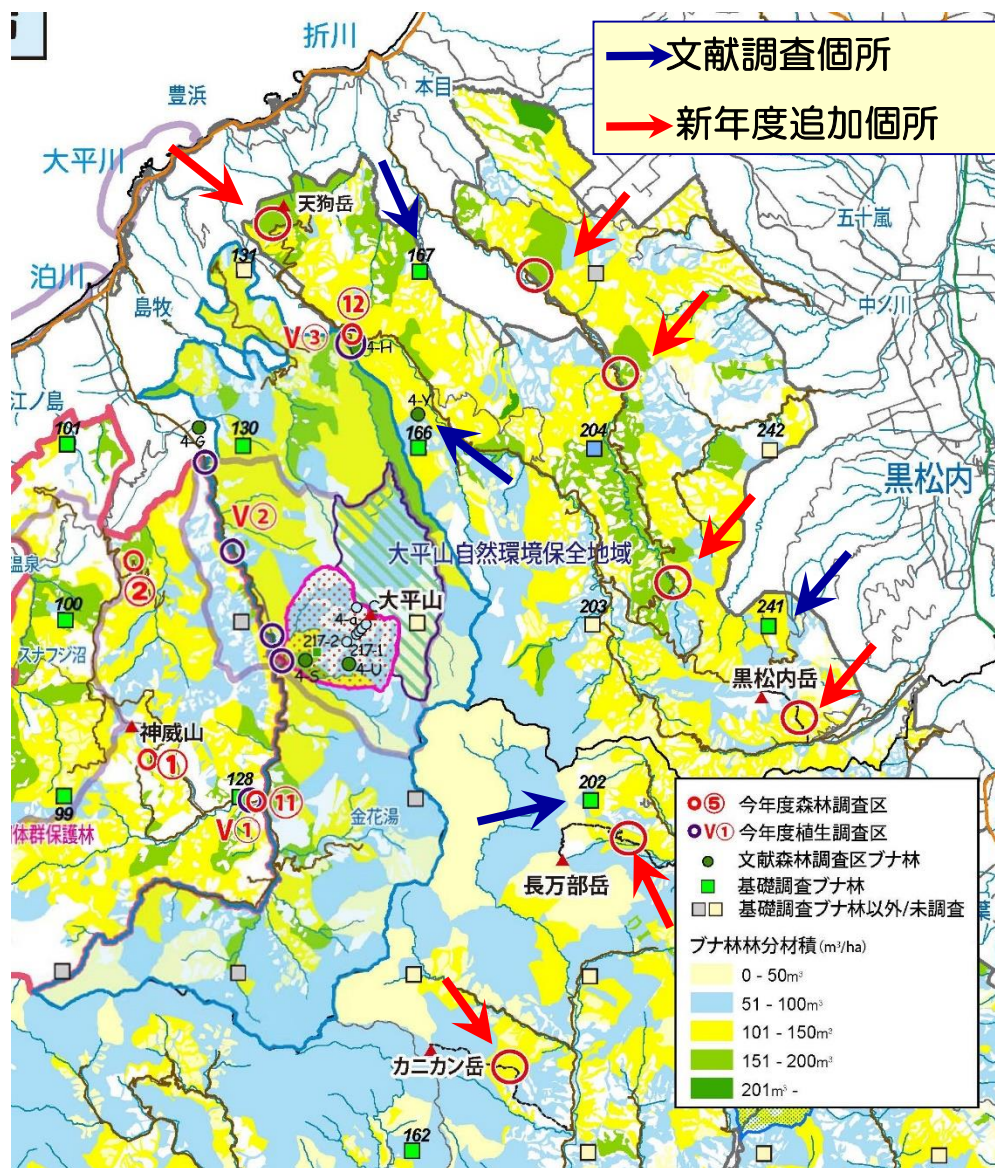
- 地すべり地には化石的な地すべり地もあり、対応が異なるべき。
- 天狗岳の周辺や狩場山の北部など、山地災害防止エリアは指定に慎重なほうがよい。

⇒地元の意向や地形データ等を調査して検討する。

- CATエリアの拡張によって悪い影響があったときに歯止めになるものとして、見直しのスキームがあるほうが安心である。委員会に報告してもらえばよいのではないか。

⇒地元において定期的に環境影響評価を行ってもらい、実施状況を併せて委員会に報告することとし、その結果によっては区域又は許可条件の見直しもあり得るという条件付きで、利用を認めることとした。

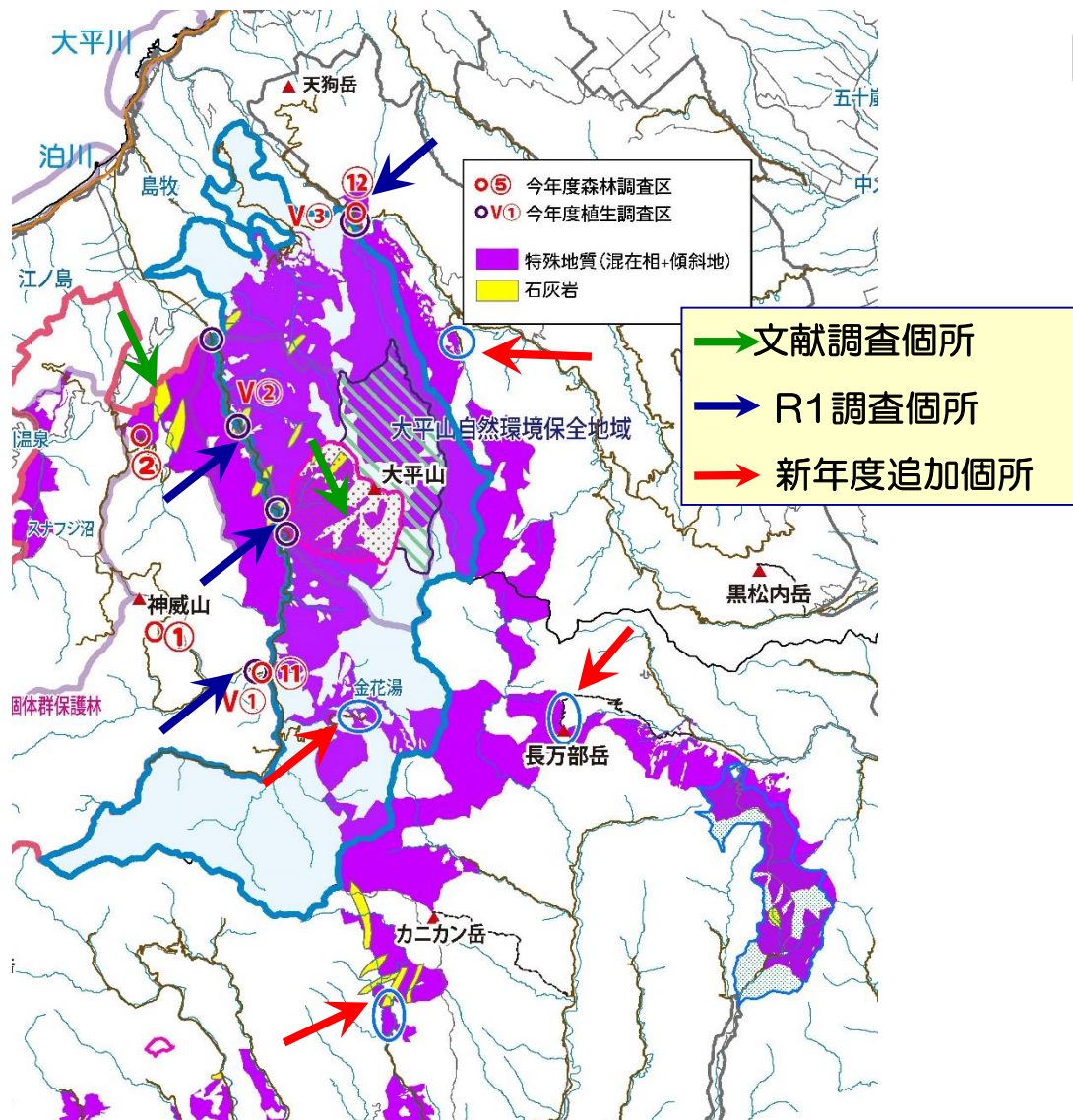
来年度の調査と分析について



□ 森林調査の追加検討

- 大平山の北側～東側、並びに黒松内岳、長万部岳、カニカン岳近辺で、ブナを含む林分の蓄積が大きく、アプローチ可能な場所を抽出して現地調査を実施する。
- 周辺に人工林造成地がある場合は、全体的な林分状況・地利等についても把握する。
- ◆ 北部の天狗岳周辺
- ◆ 折川林道周辺3か所程度
- ◆ 黒松内岳・長万部岳・カニカン岳の登山道周辺
- ◆ ヒヤミズ沢沿いは到達困難？

来年度の調査と分析について



□ 植生調査の追加検討

- 大平山を南北に貫く特殊地質の分布地でアプローチ可能な場所を抽出して特徴的な植物の生育を把握する。
- 今年度調査箇所は10月中旬のみの実施のため、調査適期（初夏等）に再調査する。
- ◆ 石灰岩の露頭が知られる金花湯周辺
- ◆ 大平川沿いの林道周辺
- ◆ カニカン岳南西部の林道周辺
- ◆ 長万部岳の登山道周辺
- ◆ ヒヤミズ沢沿いは到達困難？

来年度の調査と分析について

□ 重要な要素の分布の推定（ポテンシャルマップの作成）

◆ 分析対象区域を拡大して、次の生態系要素についてポテンシャルマップを作成する（参考資料参照）。

- ブナ林材積
- クマゲラ営巢指標
- クマタカ営巢指標
- 高山植生
- 特殊地質
- 河川周辺環境

□ 重要な要素を多く含むような区域案の作成

◆ 各要素を効果的に多く含むように区域を設定する。そのうえで各機能類型に求められる森林の機能や社会的な条件、空間的な接続・配置を踏まえた調整により、具体的な区域案として整理する。